

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立四日市商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓「至誠」の精神のもと、商業教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出すると共に地域産業担い手育成の主役となれる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	実社会で活用できる知識・スキル・課題解決能力を備えると共に、自主性や積極性を持ちながらも、礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、良好な人間関係のもと社会で活躍できる人材
	ありたい 教職員像	より良い教育活動を目指し、創意工夫し前向きに「やってみよう」の精神で取り組むと共に、周囲のスタッフとの協働に優れ、地域社会とも連携し、組織として力を十分に発揮できる職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】生徒の約6割が地元企業への就職を希望し、約4割が上級学校への進学を希望している。就職では特に事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得並びに充実したクラブ活動にも期待している生徒は多い。</p> <p>【保護者】学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待すると共に、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心安全等の観点から学校情報発信充実の希望がある。</p> <p>【企業】商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築等コミュニケーション能力を備えた人材の提供が求められる。</p> <p>【地域】地域社会の行事等への生徒の参加、参画による地域との連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>【家庭】適切な連絡や学校からの情報提供や相談体制の充実</p> <p>【中学校】卒業生による説明会参加等を通じての実際の高校生活に係る情報提供</p> <p>【企業】就職後のアフターフォローや生徒情報の提供</p> <p>【大学等】高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会設定</p> <p>【地域社会】開かれた学校経営。地域との連絡や情報共有機会の増加</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>【家庭】学校行事やPTA活動への参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制</p> <p>【中学校】適切な進路指導。生徒についての緊密な情報交換</p> <p>【企業】積極的求人。インターンシップ等への理解・協力</p> <p>【大学等】卒業生の受入の他、講師派遣や高校生への直接指導などによる高大連携</p> <p>【地域社会】通学等の安全確保への協力や学校への様々な支援及び応援的関与</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>生徒は社会的なマナー等もしっかりしており、元気に活動している姿で安心している。学校としてしっかり努力し、実績もあげているが、最終的には志願者数に反映されなかったのは残念。地域の人や保護者世代には本校の良さは十分理解されているので、「中学生」にどのように伝えアピールしていくかが課題である。地域や中学校との直接的な交流の中で本校の魅力や良さを伝えていく必要がある。</p> <p>また、職員の満足度の低下については更に情報共有をすすめる必要がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の身に付いた真面目な生徒が多いが、本校への期待に鑑み、更に質の高い「人づくり」に取り組むと共に一歩前への精神や向上心の育成にも努めることも必要。 商業高校らしく、様々な検定への対応等も含めて、これまでの実績に基づいた学習システムがあり、生徒たちも真面目に努力をしている。一方で検定対策に注力するあまり、実学として商業の実際に活用できる力が育成されているかについては検討が必要。また、受動的な学習に安心感を覚える生徒も多いが自ら学ぼうとする姿勢を育てていく必要もある。 就職は現在求人も豊富で生徒の希望する事務職への就職も比較的高い率で実現している。一方進学については指定校推薦等の活用が大部分を占めるが、基礎学力の充実はもとより進学先への意識を更に高める必要がある。高大連携の内容検討と状況改善が必要。 約3分の1のクラブが全国大会に、約半分のクラブが東海大会へ進むなどクラブ活動は非常に活発で、生徒も熱心に活動している。今後インターハイや国体開催を控え更なる充実が望まれる。一方で、学習、検定及び資格取得との両立が重要な課題。 	

学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会を有効に活用し、授業内容やシラバス検討を徹底して行う必要がある。また、教員相互の授業参観や研修促進により指導方法・指導力の向上を図っていく必要がある。 ・本校や商業教育全般の魅力を地域や中学に対して効果的に伝えることができていない。特に学科の在り方やその情宣については課題も大きい。今後メディア等への発信を強めたり、事業やイベント参加等積極的に挑戦することも必要。 ・全職員のベクトル統一が十分でないため、各部署の連携が不十分である。管理職のリーダーシップを更に発揮して情報共有や組織力の向上を図ることが急務 ・教員の負担感、仕事量、不均衡、時間外労働過多の常態化が課題であり、職員満足度の改善が必要。 ・県商業教育の本部校として、県全体の商業教育の活性化へ向けての積極的関与が必要である。
-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域産業の担い手として実際の社会で活用できる力の育成をめざし、商業教育の各分野において授業内容の見直しを行うと共に基礎学力テスト(仮称)の導入を控え、一般教科の基礎学力向上に取り組む。また、ビジネスの高度化・多様化に対応できるよう、パソコン及びインターネットや地域連携等の時代のニーズに応じた様々な学習内容や形態に積極的に取り組む。 ◆生徒に確かな職業観・勤労観を育成するため、インターンシップ・しごと密着体験等のキャリア教育を推進する。企業との連携やあるべき高大連携について検討をすすめ、就職・進学共に質の向上を図る。 ◆社会で有為に活用できる人材を育成するための人づくり教育について、その意義を生徒へ浸透させ、高いレベルで実現することを目指す。 ◆クラブ活動や生徒会活動等の一層の活性を図る共に、学習・検定・クラブ活動の関係を整理し、生徒が学校生活に安心して打ち込める体制を作る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ◆各教科会において授業改善の取組や育成したい力の検討をすすめ、授業内容の改善が進むと共に指導力向上の体制を作る。とりわけ、商業科においては検定・資格の精査をすると共に検定と授業との関係の在り方について研究をすすめる。 ◆四商検討委員会及び商業科検討チームによって本校の将来像や魅力アップについて検討を進め、具体的な対策を講じ、本校への志願者数の増加を実現する。 ◆情報共有や各部署の連携をよりスムーズにして働きやすい職場づくりをすすめ、職員満足度を向上させると共に、総勤務時間の縮減について具体的な目標を設定して取組を進める ◆教育活動全般がより充実した内容で行えるようにより一層の環境整備や条件整備に取り組む。 ◆県商業教育の本部校として、商業教育全体の活性化のため、研究委員会ははじめ諸活動に積極的主体的に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力及び学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の充実に加え、朝学の実施を通じて基礎学力の向上に努めると共に、主体的に学習に取り組む姿勢を醸成する 【活動指標】朝学の定期的な実施 【成果指標】基礎学力向上(学校生活アンケート勉強が楽しかった①②合算60%以上と単位不認定者0 ◆検定週間や補習等を実施し検定への意識を高める 【活動指標】検定週間を適時に実施し必要に応じて補習を行う 【成果指標】全商一級3種目以上合格75人以上 ◆地域産業の担い手育成をめざし、課題研究で地域と連携した 	各学年水曜日に朝学を実施した。学校生活アンケートの合算は57%(H28=53.6)全商3種目以上合格84人(H28=57人)本年度より課題研究の内容を大幅に変更し、全3年生が地域密着型・体験型の講座を選択できるよう15講座開講した。生徒	◎ ※

	<p>学習等多様な講座を拡充し、実学商業の主体的な学びを深化させる</p> <p>【活動指標】上記の多様な学習講座を 12 講座以上開講実施</p> <p>【成果指標】上記生徒及び連携相手の満足度70%以上</p>	<p>の授業内容満足度 A51.8%(AB80.1)</p> <p>連携先の満足度未測定</p>	
キャリア教育 と進路実現	<p>◆進路講話やガイダンスを通じて進路への関心を高めると共に、生徒の進路希望実現を目指す</p> <p>【活動指標】3年生8回2年生3回1年生2回のガイダンス(含外部講師招聘)等を適時に実施する</p> <p>【成果指標】学校生活アンケート進路意識の向上90%以上希望進路実現100%</p> <p>◆社会とのつながりを実感すると共に、生徒に勤労観・職業観を育成するため職業現場での活動を実施する</p> <p>【活動指標】1年全員にしごと密着体験を、2年流通コース生徒にインターンシップを実施する</p> <p>【成果指標】生徒のアンケート満足度80%以上に加え、インターンシップについては成果発表会を実施する</p>	<p>3年対象に進路指導講話を8回実施。満足度は99.6%(H28=95)。学校生活アンケート進路意識向上87%((H28=87.5%)進路実現は100%</p> <p>計画通りにしごと密着体験及びインターンシップを終了した。2/23にインターンシップ報告会を実施。</p> <p>しごと密着について効果はあるものの、時期とCPの関係で次年度実施は検討中</p>	
「人づくり」の 深化	<p>◆社会で有為に活躍できる人材を育成するための人づくり教育についてその意義を生徒へ浸透させ、高いレベルで実現することを目指す。</p> <p>【活動指標】風紀週番制度を社会に出るトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人ひとりの責任感、協調性を養う。また、挨拶の励行、遅刻者の減少、登下校指導(年間20日各5か所)を通じ登下校マナー向上を図る</p> <p>【成果指標】風紀週番制度やり直し率0.5%以下及び学校生活アンケート基本的な生活習慣が身についた95%以上 挨拶などの礼儀がよくなった97%以上 遅刻率0.1%以下(遅刻者数/在籍者数×授業日数×100)、登校指導による指導生徒数5人以下及び苦情件数前年度以下</p> <p>◆クラブ活動の充実とクラブ活動を通じた人づくりを行う</p> <p>【活動指標】全クラブが活発に活動する</p> <p>【成果指標】東海大会出場15クラブ以上 全国大会出場10クラブ以上 学校生活アンケート部活動への取組が熱心になった85%以上</p>	<p>週番当番忘れによるやり直し率8.4%(週番のべ人数1666人、週番やり直し人数のべ140人)。0.5%という成果指標の見立てが誤り。来年度は今年度の数字を基に成果指標を立てたい。</p> <p>基本的な生活週間86%、挨拶等礼儀97%(H28=97) 遅刻率0.2%(1月末現在)。昨年同月値は0.14%であり実人数にして約100人増。</p> <p>特に3学年の遅刻数が2学期以降目立った。登下校指導生徒数は3人(東門坂道乗車、傘さし)で達成。苦情件数は15件で昨年度より倍増。</p> <p>クラブ活動東海16、全国10 学校生活アンケート部活動取組熱心75%(H28=75)</p>	
改善課題			
<p>朝学や検定学習で基礎学力の向上や学ぶ姿勢の向上に努めた。昨年度50人台まで落ち込んだ検定1級3種目以上合格者について今年は84名と回復。ただし、検定学習が授業の目的化しないように授業内容については検討が必要である。生徒の基礎学力の伸長については、高大接続改革(学びの基礎診断・大学入学希望者テスト)にもらみながら、普通教科も含めて学びのレベルアップが望まれる。そのこともらみ、次年度からベネッセの基礎学力診断テストの導入を検討している。しごと密着体験は3年を経過し、一定の効果は認めるもの時期的問題及びCPの面から次年度の実施の可否を検討している。人づくりについては今年は遅刻等の統計数値が悪化しており今後検討;対策が必要。クラブ活動については今年も県総体女子総合優</p>			

勝。10のクラブが全国大会へ、16のクラブが東海大会へ進出するなど目覚ましい活躍であった。ただし、教員の過重労働との関連で大きな課題がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
 (例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
 また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
指導力向上と学習内容検討	<p>◆各教科(商業は分野)で生徒に育みたい力を明確化、その実現のための学習内容について検討をすすめる</p> <p>【活動指標】教科会(及び担当者会)で定期的に検討をすすめ、8月末までに育みたい力を明確化する。その後その実現のための授業改善方策を年度内にまとめる。</p> <p>【成果指標】授業内容満足度 A(満足)回答60%以上</p> <p>◆教科会の有効活用、授業参観週間等を通じて指導力向上に取り組む</p> <p>【活動指標】教科会の定例化 授業参観週間の2回実施</p> <p>【成果指標】授業方法 A(分かりやすい)回答60%以上</p>	<p>教科会は昨年度から定例化している。育みたい力の策定は実施したがその具体策については進捗が遅れている。授業満足度回答 A49%(A,B88%)</p> <p>H28=49(86)</p> <p>授業参観週間は2回実施</p> <p>授業方法 A52%(AB88%)H28=48(86)</p>	◎ ※
魅力アップと将来像検討	<p>◆本校の様々な活動を積極的に発信し、地域、中学生及び保護者へアピールを強化する。特に中学校に対する情報マネジメント科の情宣活動に注力する</p> <p>【活動指標】学校案内・ポスターを年1回、チラシを年3回発行 生徒たちによる学校紹介活動5回以上実施 新聞等メディア採用10回以上 保護者アンケート学校満足度 満足85%以上</p> <p>【成果指標】前期選抜2倍以上、後期選抜1.2倍以上(含、情報マネジメント科後期選抜1倍以上)</p> <p>◆平成31～33年度の生徒減も見込みながら泗商検討委員会及び商業科検討チームで本校の課題検討をすすめる</p> <p>【活動指標】泗商検討委員会及び商業科検討チーム会議を各10回程度開催</p> <p>【成果指標】平成31年度へ向けての基本方針を8月末までに決定。年度内に細部も決定し、次年度に備える</p>	<p>学校からの発信印刷物は内容を大胆に見直し、予定通り発行完了。生徒の学校紹介活動8回 メディアへの掲載は15回程度。保護者学校満足度97%(Aは64%)。志願倍率は前期2.09 後期1.27(情マネ後期1.11)。(H28=前期1.79 後期0.91)</p> <p>検討委員会は5回実施。学科改編は行わず、教育課程を変更し情マネのリーディング学科の位置づけを行う。</p>	
働きやすい職場づくり	<p>◆情報共有をすすめ、風通しの良い職場づくりを行う</p> <p>【活動指標】各学年分掌の連携を教科するため意見交換の場を設ける</p> <p>【成果指標】職員満足度アンケートの連携協力体制満足度70%以上</p> <p>◆総労働時間の縮減へ向け定時退校週間等を実施する</p> <p>【活動指標】月1回の定時退校日の設定 定時退校週間の設定 ズレ勤の定着 年休取得の促進 クラブ休養日の促進</p> <p>【成果指標】職員満足度アンケートの改善 過重労働時間数前年度比マイナス5%(月平均25.7時間以下) 定時退校日実施状況80%以上 年休取得の平均1日増 週1日以上クラブ</p>	<p>検討会議及びコンプライアンス研修で全体の意見交換会を2回実施。教職員満足度アンケート連携協力62.3%(H28=58)</p> <p>総労働時間縮減については定時退校日を増加、クラブ休養日の設定を行うも、現在月平均の時間外労働時間は平均25.9時間(H28=27.0)</p>	

	活動休養日の設定クラブ 80%以上		
改善課題			
<p>各教科における育成したい力の策定は具体策の検討⇒授業改善が急がれる。学校の魅力発信の効果か今年は志願倍率については改善が見られたが、今後の少子化を考えると教育内容の充実はもとより、より効果的は情宣活動が必要。泗商の在り方検討は情報マネジメント科を1学級としてリーディング学科と位置づけ、そのための教育課程改訂を行う方向性で決着した。この方向性徹底のためにも指導力向上や授業改善に取り組む必要がある。働きやすい職場づくりについては昨年度より改善されているが、総労働時間縮減については定時退校日の設定やクラブ休業日の実施率は悪くないが、現状ではあまり縮減が進んでいる状況にはない。クラブ活動については県としてガイドラインを策定中ではあるが、2018にインターハイ、2021に三重国体開催を控え、クラブ指導の在り方と競技力・実績向上という難しい対応を迫られている。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>地域と連携した学習の伸長、検定等の学習実績が本年度回復したことは評価できる、そのことが志願者増にも反映されている。今後更に学習内容を充実させアンケート結果が目標を達成できるようにすると共に、学校の発信力を強めて泗商のブランド強化に努めてもらいたい。進路指導については、3年間を見通し保護者も含めて早期からの情報提供やキャリア教育を更に充実させてもらうとよい。クラブ活動を通じた人づくりは社会に出た時の実戦力のある人材育成に大きく寄与しているので、今後も泗商の特色として大切にもらいたい。但し、総労働時間の縮減という大きな課題があるので、効率的な活動やオンオフの切り替えが必要となる。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>学習内容の充実がまずは急がれる。基礎学力の底上げはもとより、地域と連携した取り組みや、実学商業を学ぶ学校として、商業の授業内容や活動内容の質の向上が急がれる。「人づくり」については、泗商の良き伝統を大切にしながら、今年下降した基本的な生活習慣の啓発、改善のみならず質の高いビジネスマナーの修得を泗商の武器としていく。</p> <p>クラブ活動については、学校教育活動の一環としての学習とのバランスや教員の過度の負担軽減も含め、活動の精選をすすめる。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>各教科での学習内容検討や授業力向上の組織的、継続的な取組が必要。教科会とカリキュラム委員会の定期的な連携が必要。本校のアピールの強化については、本年効果のあった取り組みを更に進めると共に、メディアの有効活用などにも積極的に取り組む。教員の仕事の偏りや過度の時間外労働を縮減する取組は更に進捗させると共に、情報共有や職員間のコミュニケーションが更にすすむよう機会設定を行う。</p>